

2004年5月14日(金)の15時15分から17時まで、東京海洋大学越中島キャンパス内越中島会館2Fセミナー室(1)において、第23回の物流研究会が約20名の参加者を得て開催された。

ここ数年、春季の研究会では「物流関連講習会」を行うこととなっており、本研究会でも「一般講演」に引き続き「物流関連講習会」が行われた。また、講習会終了後には例年通り「研究会総会」が行われた。

それぞれの概要は以下の通りである。

物流研究は従来より、経済・経営・商学的なアプローチや、交通工学的なアプローチなど様々な角度から行われており、研究者の活躍する学会も多岐に渡っている。本講習を通じて、こうした他学会で活躍している研究者との交流も、今後の日本航海学会における物流研究会の発展に大変有意義なものであると改めて感じさせられた内容であった。

(幹事 岡山 正人)

1. 一般講演

以下のテーマで講演が行われ、活発な議論がなされた。

「船社経営における保有船舶隻数の決定に関する検討」

講演者 宋 震勇(東京海洋大学大学院)

中国海運の現状から、船会社の定期船経営における課題を検討するとともに、その課題のうち自社の保有する船舶隻数を決定する手法について紹介がなされた。本手法は、年間貨物受注量を与件とし、経営利益を最大にするような自社船および傭船の保有隻数を求めるもので、講演ではこの手法を実データに適用することでその有効性を確かめていた。

2. 物流講習会

「物流講習会」も今回で4回目となり、以下のテーマで行われた。

「海技研物流研究センターの研究紹介」

講演者 勝原光治郎(独立行政法人
海上技術安全研究所物流研究センター
センター長)

「物流関連講習会」とは、物流に関連する様々なテーマを取り上げ、それに詳しい方に来ていただいて講演をしていただくとするものであるが、今回は「海上技術安全研究所物流研究センター」における物流研究の内容紹介であった。日本航海学会ではなく他の学会等で発表されたものが中心であったが、その内容は外航定期船航路のシミュレーション分析やフェリーなどを利用したモーダルシフトに関する研究など、日本航海学会で行っている物流研究とも深く関連するものばかりで大変興味深いものであった。